

FUJI 未来塾 公開プレゼンテーション 実施記録

日時：平成 28 年 2 月 13 日(土) 12:30 から 16:00

場所：富士駅北まちづくりセンター 多目的室

I. 公開プレゼンテーション(13:30~15:15)

1. まちづくり課題旨説明・講師紹介 (司会：望月センター長)

(1)開催趣旨説明

「FUJI 未来塾」は、次世代の地域づくりの人材を育成していくことを目的として開講。受講生自身が、富士市のために実際に活動を始めるときの企画作りを行なう連続講座。24 名の受講生たちは 9 月から約半年をかけて富士市を取り巻く環境や課題について共に考え、プロジェクトチームをつくり、「このまちのために自分たちができること」をテーマに、企画作りすすめてきた。今日は 5 つのチームそれぞれの成果と発表する機会であり、市長をはじめ、各チームの企画に係る様々な機関や団体の方々にお越しいただいている。

(2)講座講師紹介

講座講師の飯倉清太様は伊豆市を中心に活動する NPO サプライズの代表理事。ゴミ拾い活動から始まった活動は、伊豆市から今や静岡県内各地に拡散している。「若者を伊豆に呼び込み地域の活力を取り戻す」をテーマに若者を巻き込んだ幅広い活動を展開。「まずやってみる」をモットーに、活躍の場は静岡県内、そして全国へと広がる、地域活性の仕掛け人。

2. 公開プレゼンテーション開始 (進行：飯倉講師)

多くの方に参加いただきありがたい。今日は 5 チームがプレゼンテーションを行い、プレゼン後は、皆様から色々な意見を伺いたい。また最後にはアンケートにも協力願いたい。

FUJI 未来塾は発表するだけでなく、実行していくための講座。今回は、講座として最終プレゼンであるが、活動のスタートとなる機会でもあるので皆さんから様々な意見をいただきたい。

(1) チーム：ローザマリーナ・プロジェクト

「知る人ぞ知る魅力と価値。シラスはカラブリア州(イタリア半島)と田子の浦を繋ぐ。」

メンバー：石井由香・渡邊勇介・横田純孝・依田利也・竹田真奈子(欠席)

<プレゼン：渡邊勇介>

田子の浦漁港を舞台として拠点におき、やりたいことを考えてきた。イタリアカラブリア州の食文化を通じて田子の浦シラスの魅力伝えていきたい。課題としては、生しらすだけでも他との差別化できるが、もっとバリエーションが欲しいこと。漁のときに捨ててしまう中サイズのしらすの活用がしたい。本当の田子の浦しらすの価値が活かされていないことが、課題であると考えている。しらすだけではなく港にも対応できる場所が少ないなどの課題がある。

課題を解決すると、しらすのブランド価値の上昇がある。関連業者の収入も増える。富士市民以

外の人から、「富士市の田子の浦しらす食べたよ、美味しいね」と声が入ることで、私たちも気づきが有り、意識が変わる。観光客の獲得や観光客の単価アップにつながる。

「活きの良い港」というキャッチフレーズをつけたい。昼下がりにしらすとお酒を飲みながら楽しむ港。沼津にも清水にも行ける沿岸沿いがある。今、自転車ブームでもあるので、田子の浦に自転車の人達によっていただき、そしてしらすを食べて地元の人も外部からの人も楽しんでいただく。そして、新鮮な生シラスではなくてはならない他にはない商品を作ろうとして思いついたものが、「ローザマリーナ」である。リーダーからの詳細説明へ。

<プレゼン：石井由香>

カラブリア州は、夏は暑く乾燥する山岳地帯で、特産品である唐辛子を使った保存料理が食べられているところである。山岳地帯を利用して自転車競技が盛んなところである。世界的な自転車競技ジロ・デ・イタリアの今年度の開催地であり、隠れた人気スポット。ローザマリーナは、別名カラブリアのキャビアとも呼ばれる発酵食品。強い旨味が特徴で唐辛子と生シラスと塩とスパイスで漬けた食品。これを田子の浦のしらすで作りたいと思った。きっかけはカラブリアとの文化交流につとめる友人からこれを教わったこと。

1月21日ローザマリーナ試食会を3品を用意して行った。「辛かった」とか、「とっても美味しかった」という感想をいただいた。私たちは、現地でも貴重な伝統的製法を使用したローザマリーナを作りたい。すでに首都圏のシェフたちにこういったローザマリーナができた暁には買いたいという声が出ていると聞いている。田子の浦産で付加価値がつき、幻の一品として出せる。多種のお酒に合う。日本酒にも合う。

今年の10月に富士山と伊豆を舞台とした自転車の大会が企画されている。是非、コースの中に田子の浦も組み込んでいただきたい(海拔0メートルから富士山までとして富士市が目される)。今後、静岡県に訪れるイタリア人も増えるので彼らにも世界に田子の浦しらすをPRしてもらう。プロジェクトのスケジュール:3月しらす漁解禁、5月カラブリア州へ視察しながら製法を学ぶ。9月しらす祭りでローザマリーナお披露目までつなぐ。

懸念点として、開発費、商品開発方法はどのようにするか。ローザマリーナは非加熱で食品開発して出すか過熱して出すか、イベント出展などの方法や打開策を検討しながらプロジェクトに望んでいる。

会場からの質問

質問1：事業計画と資金調達については今現時点でどの程度か、またプロモーションは来た人にもどう示していくか。

回答：開発費について「ふるさと名物応援事業の補助金」を費用にしたいと考えている。しらすを地元の名物として宣言いただいて、市の協力をいただきたい。これは、3月8日締切であるが是非市の協力が得られれば早急に動いていきたい。事業費は中小企業庁の補助金。やろうと思う企業や事業者が直接、国に申請し、上限は500万円3分の2補助。市の基本計画が備わっていること必須。今時点、その他の助成金、補助金等の候補はない。

PRは、漁協中心だか、主都圏のプロのシェフからすでに買いたいと申し出があるので、確実なところはピンポイントで狙い、外部からでも注目していただき発信していただくことを考えている。

質問2：ローザマリーナという名の意味については？(商標をとること念頭に入れてみてはどの意

見。)

回答：カラブリア州の限られた土地だけの呼び名である。強いて言えば、商品名はローザ(=バラ) マリーナ(=海)と結べる。

講師からの質問

質問：漁協にはどうアプローチをかけたのか？

回答：未来塾に参加する前からこのアイデアを実行する気でいた。漁港には、一個人の申し出も多いらしいので、今回は市主催の「FUJI 未来塾」の受講生として話を聞いてもらえて良かった。

(2) チーム：ここで誰かと観る映画

メンバー：鈴木遥平・渡邊綾香(欠席)

<プレゼン：鈴木遥平>

映画好きなのでこの企画を立ち上げた。映画はきっかけに過ぎない。岳南電車の駅で映画の上映を企画。大事にしたいのは、共有と創造、そして公共という言葉。(マイナスとマイナスを掛け合わせるとプラスになるのではないか。) 一つの体験を複数の人が体験、言葉や雰囲気や記憶として共有すること。フィールドを物理的につながっている駅に置いて行なうことで、公共を考える第一歩の想像力となるのではないか？

富士市内に知人を案内して自慢したいと思える場所がありますか？という問いに6割はネガティブな意見、そうは思わない派が過半数を超えている。駅周辺や商店街に関する意見では、商店街に空きが目立ち活気がない。「映画館の一つでもあれば。」という意見も出ている。

私は東京から数年前に富士市にもどり、富士市に暮らしてみても思った以上に楽しかった。これは自分か楽しい方たちに出会えたことからだった。それでは「楽しくしてみるためには」なにかを行なうのはどうか。自分という立場で考えると、これには、イベントでまだ昇り時代だった記憶から映画館が良いと考えた。

今、映画は市外へ見に行くか自宅でレンタルをする程度。ハード(箱物)を作るのは大変なので、施設はあるものを活用する。家では味わえるものではない。ただ今は、日本という国自体が、映画を観ないのではないか。入場者数もぐっと数が減って今は最盛期の10パーセント程度である。そもそも、映画は高く長い。1本観るのに1,800円、2時間かかる。1時間あったら何ができるかと考えると他の娯楽には完敗。

しかし、それだけでいいのか？と考える。一人で家で見ている映画で本当に良いか？映画を観るといのは、とても楽しい。例えば隣に座ってた知らないおじさんと同じタイミングで笑ったとか、あの時見た作品を大人になってもう一度ということもある。やはりかなり感じ方が違う。

ただ映画を観るとい時代は終わった。同じ作品を、同じ場所、同じ時間で観るけれど、近くに座る誰かとは、受け取り方が違ったり、例えば10年前に観た時とは受け取り方は違う。それでも違っていいんじゃないのか？それって場所の多様性を実感する機会じゃないのか。街で楽しく生きてみたいなら、今とはちょっと違ったことをしてみるということが大切ではないかと思う。

この企画は、江尾駅または、比奈駅で考えている。経費は10万円程度かかる。継続的な開催を目指している。駅にとどまらず様々なところで上映を考えている。知らない人達と同じ映画を観ることと同じ時間を過ごすのもいいじゃないかなと考えてもらえば、楽しくなって、例えば富士に50年

暮らす人のことなどを考えられるかもしれない。

会場からの質問

質問1：駅では、電車の音やいろいろな音や人が入ったり、外の音がうるさいのではないかと、どういう風にクリアーするか。

回答：確かに難しい所なのですが、どう映画として楽しむか。大まかに二つあると思う。静かな空間で映画を見るということもある。そうじゃない空間で映画を観るという体験もあっていいと思う。なにか変化を入れられることで見え方とらえ方がかわる。雰囲気を楽しむことが狙い。

質問2：映画を作る上で大事なものは脚本と思いますが、鈴木さんの考えている脚本はどうですか。もし、借りてきて上映するならどんなジャンルですか？

回答：借りてきて上映すると考えている。著作権料を払い、借りることで常にある作品を上映する。ただ、作ることも好き。企画では無料映画。ジャンルは駅野外なので、日本の映画や子供用の映画や大人も子どもも好む開かれた内容と考える。

質問3：岳南電車は、利用者は少なくないですか？

回答：岳南電車は20年前ぐらいまで少なくなっていた。今は、横ばい。今は、全国の私鉄の駅を使って、色々イベントや企画を考えているところが多くてもものすごい数の人が訪れているところがある。

質問4：1本目は何を上映しますか？

回答：「レイルウェイズ」という日本の映画。50歳手前の人が、転職をして電車の運転手になったという実話をもとにした映画で考えている。国際的な映画でもあるので、ここの場所でやるのはふさわしいと思う。

(3) チーム：赤澤フェス

「FUJI コトはじめフェスティバル」

メンバー：赤澤佳子・西村知浩・高田聖久・飯塚壮志・神部智世・玉永正亨(欠席)

<プレゼン：赤澤佳子・飯塚壮志・神部智世・高田聖久>

健康に関するお祭りを行なった。そのイベントの様子の説明(草笛・歌声・チャンバラ・チアリーダー)1月30日に富士市民活動センターでトライアルイベントを行なった。資料の写真のように10の団体が来てくれた。私たちが行ったのは「FUJI コトはじめフェスティバル」。

FUJI コトはじめフェスティバルとは、新しく何か活動している人と一緒に活動してくれる団体をつなぐフェスティバル。私たちのチームでは、富士市の未来を作るのは、人であると考えた。そして、私たちの住む町は自分たちの手で作り、守るんだとか活動を始めている市民活動団体の皆さんの力であると考えた。世論調査結果も取り入れて、誰もやっていなかったのでもやってみようと考えた。そうすると、何か始めたい市民が見えた。仲間が欲しい。富士市は活力が欲しい。活動団体が活動するとまちが活性化するかもしれないと考え、これら3つの皆が良いのでイベントを興した。トライアルイベントではチラシ500部の印刷等の費用のために協賛10社の協力を得たり、他にもメディアの協力などたくさんの方の協力を得て、やろうとしてから2ヶ月で実現できた。

次に繋げるため、アンケートや参加団体にはアンケートに加え話し合いの場を設けた。ここでは、万単位の大きな規模と違い、会場には常に70人から80人程度の方がいたため、濃いコミュニケー

ションの場となった。NPO 法人や同じ活動をしている団体との横同士の繋がりを持つ場となり、お互いに何をやっているのかわかったと聞いている。

行政とか商業ベースでやるイベントは市民レベルの目線を下げたマッチングは難しいが、私たちは100人足らずのイベントであるがそのレベルでやっていくことが大事。多く人を集めるかよりも、その場にいる人達がどれだけ密に繋がるかが重要で何より続けていくことが大事。参加団体や来場者がつながっていけば、こういうイベントが自然発生的に行なわれるのかと思うが、まだ横のつながりがこれからなので、イベントを作ってあげたいと思う。地域に根ざしている市民活動団体が人と繋がっていくことが第一歩と結論付けている。そして、地域への関与者が増えている。今後は、回数を重ね、小さな規模でも回数を重ねて活動の広がりや人と人のつながりや団体や団体の繋がりが富士市中にあふれていくものと感じる。富士市内の人でも市外の人でも富士市に関与していける動きになって行ければ、もっと富士市が輝けると思う。私たちが活動してみたことでヒントが見えてきた。とにかく出来ることをぶつけて「FUJI 未来塾」を通じて出来たので、今後はみなさんの意見を取り入れ、私たちモチベーションを持って活動していきたいと思っている。

会場からの質問

質問1：実際参加した市民活動団体は、何団体か？

回答：10団体。市民活動団体は人を集めたり活動したりするのは難しくない。しかし、資金などは問題ではないが、市民活動団体の抱えている問題として今後自分たちの団体はどうなっていくのだろうということと、1人の中心となる力の人達がやめたり、やめざるを得ない時にすぐ、とまってしまう。市民団体自体が外から見て信用無いんじゃないかということがある。小さなイベントに来られる方は意識の高い方と思う。お客さんでも良いが、お客さんというより今後仲間になっていける人達が来てくれて、今後市民活動団体同士が繋がってより強いものになっていくと良い。それにより、市民活動団体自体がもっと信用のあるものになっていくことが、たくさん人を呼べるイベントでは、なかなか出来ないこととみなさんの意見を聞いて思った。

質問2：情報のデータ化はどうか？

回答：私たちの使命としてイベントをして今後より良くするため、アンケートと色々な分析を行ない、それぞれの団体にフィードバックしてより良くなって頂くこと、ほんの少しでも良くなって頂くようにこれからも強い仲間を募ってとやっていけたら思っている。

講師からの質問

質問：地縁の地元の役員をやっているが、全部決められたスケジュールの中で、それをこなしていくのが役員の役割。それ以上のことはなかなかできないけど、これからそういうのが増えてくる時代になる。富士市はまだいっぱい人口がいるので、今のうちから、色々と人材バンク化できていけばきっと地縁社会に協力ができる。マッチングはできそうか？

回答：地域での人口が減ってくる中で高齢化が進み、残念でも成り立たなくなってくる。しかし、富士市ではまちづくり条例なども進め、かなり活性化が進むとは思っている。それでも成り立たなくなってくる時にこういう団体が積極的にかかわるようになっていかないと。また、地区同士が何かやるときにそれがマッチングできる。そういう機能ができるかもしれない。こういうチームが広がっていくことが必要ではないかと思う。

会場からの質問

質問(岳南電車社長)： 学生やこういうメンバーはどうやって集めたのか。また、その方々が発表する場など、どういう風に展開していくのか？

回答： やってみて若い人達に意識があるということがびっくりした。潜在的にやりたがっている。こういうところなら出来るということで、今回未来塾を行政が行なってくれてよかった。そして、行なった時に若い人達が年配の人達と混ざって楽しかったと言ってくれている。次回も来たいと言ってくれている。義理ではなく、情熱をもってやっていると集まってきてくれる。若い人達は無理して無くても情熱をもってやっていると言ってくれてくれる。大きなところではなくて、小さなところからすすめていけばだんだん大きくなっていくのではないかと思う。

質問： 岳南鉄道の駅でこういうものを行なうことも、可能ではないか？

回答： 場所は今回は、吉原で会場費が、タダだったということがあった。コミュニケーションのことを考えると規模としては、こじんまりしている所や、人の行き交う駅などで行なうとよいと感じた。

(4) チーム：フジオープンカフェ

「職しごとカフェ」

メンバー： 植根正貴・佐野昌弘・秋山充洋(欠席) 学生サポーター飯塚壮志・神部智世

<プレゼン： 植根正貴>

大学生を富士本町に街にもどしたい。富士駅の商店街が殺風景で人がいない、通らない、飲み屋ばかりで怖いというような印象がある。そんな中で商店街等の皆さんの努力によって、明日も開催される軽トラ市や哲学カフェ、ちょっとおしゃれな店舗などで、人が集まると街が元気になるだろうということで動いている。

そのような中で私達は、賑わいの場所作りを考えている。富士駅の利用者は1日8,300人あり、毎日通勤通学でせつかく富士駅前を通るので寄り道できるような場を作りたい。勉強の場や活動の場になるような場所を考えている。

そこで、若者の活力を街に取り入れたい。常葉大学は1,200人の学生がいる。そのほとんどが県内95%、富士・富士宮で35%と伺っている。県東部で6割の方が来ている。常葉大学の学生をターゲットに商店街の活性化を図りたい。3年生ぐらいの将来何になろうかと就職活動の前準備の頃の方に、いろんな職種に来ていただいてフランクな感じで情報交換できる場を作っていきたいと思っている。職しごとカフェを開設することによって、課題解決できる。商店街の活性化・経営側・地元企業・富士市にとって効果がある。

カフェの開設は、お店の空き時間や営業時間を使ったり、もしくは公共施設を利用することで、協力いただけたところをぐるりと回りながら、拠点としながら参加する学生にいろんな店を知っていただく。そこに来ていただく社会人の方は、常葉卒業生や希望の職種によっては、就労支援を行なっているところから人材派遣を依頼したり、大学のキャリアサポートセンターとも協力して実施していき、参加者を募る。1月にトライアルを実施した。参加した二人がいるのでその時の感想を。(学生サポーター飯塚感想)

最初は、先輩や社会人の人が1人に対して、僕らが5人ぐらいで話を聞くのかと思っていた。実際は社会人の方が2人いた。1人の話を聞きながら違う職種の人が、私たちはこうなんだよと話して

話題がより深くなり良かったと思う。参加してみて、先輩は社会に出てまだ数年だが、ある程度年齢の高い人が入るとよりキャリアの違いから視点が変わってくるので、より一層面白い職ごとカフェができると感じた。

(学生サポーター神部感想)

トライアルには急な用事で参加できなかったが、何度かお話を聞いたり、意見を出させていたでいており、私自身もカフェに行くのが好きなので、富士駅近くにどのようなカフェがあるのかとか、あと1人だと入りづらい点もあるので、そういうところが職ごとカフェなら改善されて、友達を誘ってでも富士のお店に来たくなると思う。

<プレゼン：植根正貴>

関係者の人からも意見交換で、若者の視点が必要だし、大学生の視点が入ると経営にも生かせるという話もあった。協力店舗を募ることも可能で、空き店舗もあるので、出来るという意見をいただいている。大学のキャリアサポートセンターにも話を伺った。大学の教育以前に本学の学生が地域に貢献できる機会があるというのはありがたいということだった。今のところ、大学と富士本町商店街との関わりは無いが、こういったきっかけができればという話も伺っている。今後、第一回目としては、春休みが終わった4月から定期開催していく。最終的には、学生主体に動いていくような形で商店街のいろんな取り組みに連携して、交流・活動・学習の場づくりに発展していければいいと思っている。

会場からの質問

質問1：私も常葉の卒業生。学生が町に下りてくるように応援というか、一緒にやらせていただきたい。今、学生たちと吉原商店街に出るような企画をしている。

回答：賛同される方も多くいる。仲間に引き込まれた方もありますので更なる展開もありますので一歩一歩やっていきたいと思う。

質問2：事業主体は？

回答：当面は、未来塾企画のチームを主体に学生さんや商店街の方で参画していただける方と一緒にすすめていきたい。

講師からのコメント

講師として活動を8年やらせていただけてきたが、大学があることはすごいメリット。富士常葉大の場合は富士駅に一発で来る。集まる所がある。私は修善寺ですが、いろんなインターンシップが修善寺に来ているが、県外から来る子は働き始めると大変で私たちとは関わらなくなっている。常葉大は、9割前後、地元で就職をしている。就職後も協力をいただける体制できれば、学生にとって宝物。それにアプローチがかけられる状況になる。キャリアサポートセンターにそういう話をいただいているということは大チャンスということ。

(5) チーム：未来

「中高生からも愛される富士市へ」

メンバー：長田結衣・大杉友菜・佐野郷・鈴木あやめ(欠席)・杉山克秀(欠席)

<プレゼン：長田結衣>

富士市で中高生も楽しめる。クラスメイト、友人から将来も富士市に住みたいと思う人が少ない。

中高生から楽しめることがあれば富士市が好きになると考えた。

スポーツ系イベントのアルティメットと文科系イベントのビブリオバトルという2つのイベントを考えた。

ビブリオバトルは自分が面白いと思った本を仲間と共有することができる。本離れしている若者が本を読むきっかけになると思った。アルティメットは富士市で推進しているスポーツであり、自分の通う市立高校でも体育の授業で行なっており、いろんな人が楽しめる。

＜アルティメットの説明＞(略)

企画の流れ 富士市立高校を会場に行きたい。グラウンドは人工芝。授業で行なっているため、必要な道具も揃う。人集めは、SNS以外にも友人への誘い呼びかけが効果的になると考えた。そのため、富士市の中学校・高校にポスターの掲示依頼をしたり、プリントを配らせていただく。ポスターに載せる言葉にこだわり、アルティメットはかなり走るスポーツなので「楽しくカロリーを消費しよう」など、カロリーを気にする高校生に良いものにしたい。(また、運動よりもインドアが好きな人にも伝わる仕掛けを考える。) アルティメットはメインテーマを決めて行なう。景品もあると盛り上がると思う。

また、大きなイベントの前に一度規模の小さなイベントを行う。そのとき中高生を集める時の課題や意見、感想を探ってみる。中高生にも人気がありそうなビブリオバトルを行なう。

＜ビブリオバトルの説明＞(略)

これは、まちづくりセンターなど多くの人達の来るところで行ないたい。通常は、題材を小説で行うが、中高生対象で行なうので漫画で行ないたい。春休みなどに行なう。

イベント活動を楽しんでもらい、PRしてもらえれば、富士市を好きになってもらえる。多くの方々の協力が必要となると思うが、この企画を実現し、イベントを持続的に行なっていくことで中高生が富士市の活性化の中心になっていければよいと思う。中高生からも愛される富士市なることを願い発表とさせていただいた。

会場からの質問

質問1：ビブリオバトルはどのように人集めするか。

回答：ポスターで行なう。

質問1：会場はまちづくりセンターとあるが、ぜひまず西図書館で検討をお願いしたい。

質問2：提案、富士宮市で高校生会議所というものが市内5校横のネットワークづくりが出来ているようなので、富士市の方も行政の協力をもらって高校と高校のつながりをもって情報発信をしていくことを提案したいのですが、いかがか。

回答：他の高校でも連携してやっていたらいいなと思う。

Ⅲ. 市長講評(15:15～15:20)

本日は、F U J I 未来塾公開プレゼンテーションに多くの方々のさんにご参加いただきありがとうございました。参加をいただきました24名の皆さん、飯倉先生を初めとした関係課の皆さん、団体のみなさんご協力ありがとうございました。

途中中座があり、申し訳なかったのですが、3番目4番目の発表はあとで市民部長、まちづくり課長から報告をうけたいと思う。

昨年の9月から未来塾がスタートして半年にかけて5つのプロジェクトチームにわかれて富士市の課題資源、魅力をしっかりとらえて精力的に活動を行なってきた。その結果、大変素晴らしい発表をしていただいた。

最初のローザマリーナでは、まず食べてみたいと思った。わくわくする話でこの物自身が人をひきつける魅力ある食品に育っていくように思う。化ける可能性があるとなんな風に思う。

2点目の映画では、ずいぶん映画に対する情熱を聞かせていただき、駅で映画するというのは普通の人の発想ではなくやはり若い人の発想だからこそ提案されるんだと感じた。実現可能なので、ぜひ映画を作っていていただいで上映していただきたい。

最後のアルティメットについては、私は個人的に市のフライングディスク協会の役員をしておりまして、大会開催についてはこれまでも応援させていただいている。切り口として、中高生から好かれる富士市づくりのお話をいただいたということで、他の地域にはない全国大会がこちらで年に数回開催されていることは市にとって魅力である。市民にもっと知っていただければ、これを通じて富士市を好きになっていただけるのではないかと教えていただいた。この3月には2,000人以上の選手が河川敷に集まり大会が開催される。関心持っていただけますようお願いする。

今回のこのプレゼンテーションは、すべてこれからのスタートとして大いに発展していく、現実のものになっていく可能性を秘めたものであると感じた。高校生会議のことについても、若い方々の声を本当に大切にしなければならぬということを痛感させていただいた。これから皆さんからご提案いただいたものは皆さんとともに行政は行政なりに協力をさせていただいて、皆さんはこれから富士市をささえていただく地域づくりのキーマンだろうと、市にとりましては大切な人材であると思っております。どうかこれからも活躍していただいで様々な提案をしていただければと思っています。心から感謝いたします。

IV. 閉講式(15:30~15:40)

1. 修了証授与

富士市長より、各チームの代表に修了証を授与

2. 集合写真撮影

受講生集合写真撮影:チームごとや全体で写真撮影

3. 閉講